

➤ 本社の管理端末から全国のサーバの 統合バックアップ管理を実現

バックアップソフトの導入により
情報システム室のサービスレベルが大幅に向上



ユーザープロフィール

業 種：清酒の醸造および販売
会社名：白鶴酒造株式会社



課題

白鶴酒造では、伝統の技と最新設備を用いた酒造りを約60台のサーバからなるITインフラで支えている。しかし、Windows Server 2003のサポート終了に伴うサーバリプレース時に問題が発生した。それは従来使用していたバックアップソフトがWindows Server 2012に対応していないというものだ。また、管理面にも課題を抱えており、新しいバックアップソフトウェアが求められていた。

経緯

新たなバックアップソフトを導入するため、各種メーカーの製品を試用してみたところ、使いやすさが際立っていたのがArcserve JapanのArcserve Backupだった。全国に支店を持つ白鶴酒造にとって、本社の管理端末からバックアップ対象となるサーバ約40台を一括でバックアップ/リカバリできることも求めていた。これによりバックアップ運用管理の負担軽減を見込んでいた。

導入

白鶴酒造ではArcserve Backupの採用を決めてから順次構築、導入を進めている。当初はバックアップ対象となるサーバ40台の中から、まずは20台に導入した。今後も順次社内のバックアップをArcserve Backupに切り替える方針だ。サーバ台数に関係なくバックアップデータ容量ごとにライセンスを購入するキャパシティライセンスを採用したため、構成変更に伴うライセンス追加購入の手間なく運用できている。

効果

本社の管理端末から統合的にバックアップデータの管理ができるようになったことで、情報システム室のサービスの質が向上した。具体的には、Arcserve Backupの管理画面が扱いやすいため、専門の知識を持たないスタッフであってもリモートから遠隔地の支店のデータをリストアできるなど、必要なサービスを迅速に提供できるようになり、従業員の業務効率の改善につながった。



寛保3年に創業した白鶴酒造は、清酒「白鶴」に代表される日本酒の販売で全国的に名が知られている。伝統の技と最新設備を用いた酒造りを支えるのは、約60台のサーバからなるITインフラだ。それらの稼働を支えるため、白鶴酒造ではArcserve Japanが提供する「Arcserve Backup for Windows」を導入し、統合的なサーバ管理を実現している。



白鶴酒造株式会社
情報システム室 主任

勝部 一郎氏

課題

サーバリプレースを機にバックアップソフトを刷新

白鶴酒造は寛保3年、神戸の灘の地に創業した歴史ある日本酒メーカーだ。灘地方は良質の水や、厳しい冬の寒気など清酒製造に適した気象条件を備えた土地であり、日本随一の酒どころとしても知られる。最近では、農業の後継者不足に対応するため、自社で農業法人「白鶴ファーム株式会社」を設立し、酒米の栽培にも力を入れている。

同社では異なる特長を持つ3つの醸造所を有している。本店二号蔵工場では昔ながらの伝統的な製造方法で吟醸酒などを製造し、本店三号工場では最新技術による醸造方法で、年間を通じて清酒を製造している。加えて最新の装置と伝統的な設備を併せ持つ旭蔵工場では、吟醸酒やレギュラー酒を製造するなど、それぞれの醸造所で最適な酒を醸造できる設備を備えている。

このように、伝統の技と最新設備を用いて日本酒の醸造を進めてきた白鶴酒造。それらを支えるITインフラとして、同社では物理サーバ、仮想サーバを合わせて約60台のサーバが稼働している。以前までは数種類のバックアップソフトで合計40台のサーバのバックアップを実施していたが、Windows Server 2003のサポート終了に伴うサーバリプレース時に問題が発生した。

白鶴酒造の情報システム室で主任を務める勝部一郎氏は、当時の状況について次のように説明する。「従来の環境との互換性が高いWindows Server 2012を採用し、新たな環境で運用をスタートさせようとしたのですが、以前メインにしていたバックアップソフトがWindows Server 2012に対応しておらず、データのバックアップが行えないという問題に直面しました」

バックアップソフトが使用できなければ、万が一機器にトラブルが発生した場合にデータが失われてしまう。白鶴酒造ではWindows Server 2012に対応しているバックアップソフトを新たに選定し、導入することを決めた。選ばれたのはArcserve Japanが提供するバックアップソフト「Arcserve Backup for Windows」(以下、Arcserve Backup) だった。

経緯

サーバ管理のしやすさとライセンスのわかりやすさが大きな魅力

選定の決め手になったのは使いやすさだ。「さまざまなバックアップソフトを試用しましたが、Arcserve Backupは管理のしやすさとライセンスのわかりやすさが際立っていました」と勝部氏は振り返る。

従来使用していたバックアップソフトは、サーバの稼働状況をメールで管理者に通知していた。メールでは“エラー”“警告”などサーバに何らかの異常が発生したという大まかな情報しか通知されず、詳細な情報を見るためには本社の管理端末からリモートで各サーバにアクセスするしかなかった。



しかしArcserve Backupは、本社に設置された管理端末のコンソールから、Arcserve Backupをインストールしたサーバの状況をツリー状に表示して確認するなど、統合的な管理が行える。従来のバックアップソフトと比較して格段に管理が行いやすくなり、逐一各サーバにアクセスしなくても稼働状況が確認できるようになった。

また、白鶴酒造ではバックアップ対象の総データ量に対してTB単位で課金を行うキャパシティライセンスを採用している。そのメリットについて勝部氏は、「従来導入していたバックアップソフトはサーバ1台あたり1ライセンスを購入しなければなりませんでした。しかし、キャパシティライセンスは、サーバ台数に関係なく、バックアップ対象データ容量分だけのライセンスを購入します。ライセンスを追加購入する手間やコスト削減につながりました」と語る。



導入

電話によるサポートで円滑な導入を実現

白鶴酒造ではバックアップ対象となるサーバ40台の中から、先行して20台を対象にArcserve Backupを導入した。順次構築、導入を進めており、円滑に運用が行えているという。

勝部氏は、製品導入時のArcserve Japanのサポートについて「基本的には電話によるサポートで対応していただきました。1度問い合わせをしたら問題が解決してくれるまで丁寧サポートしてくれます」と語る。

またArcserve Japanではユーザーを対象に、基本的な操作はもちろんあまり知られていない便利な設定や、運用環境の改善方法などを学べる実機を利用した無償のトレーニングを実施している。勝部氏はこのハンズオントレーニングに参加し、Arcserve Backupによるバックアップの方法や新たな機能などを習得し、自社での導入に活かしている。

効果

システム管理者でなくともデータのリストアが可能になりサービスの質が向上

Arcserve Backupの導入後、最も効果があったのは情報システム室のサービスの質が向上した点だという。「当社では、社内規定によりサーバ内のデータのバックアップ保存期間を1週間に設定しています。この期間であれば、従業員が誤ってデータを削除してしまっても復旧が可能であることを通知しています、実際、1週間に1回程度の頻度で従業員からデータ復旧の依頼があります。しかし当社の情報システム室では、サーバの運用を3名で行っており、知識のあるシステム管理者が不在であるケースもありました。その場合、管理者が帰社するまでデータの復旧が行えず、業務が滞っていました」と勝部氏は話す。

Arcserve Backupはこうした課題を解決した。Arcserve Backupはサーバの統合管理が可能だけでなく、UIが非常に分かりやすくなっているため、システム管理者でなくともデータのリストアが容易に行えるようになったからだ。現在は、情報システム室に所属する専任ではない社員にもArcserve Backupの操作方法を指導し、システム



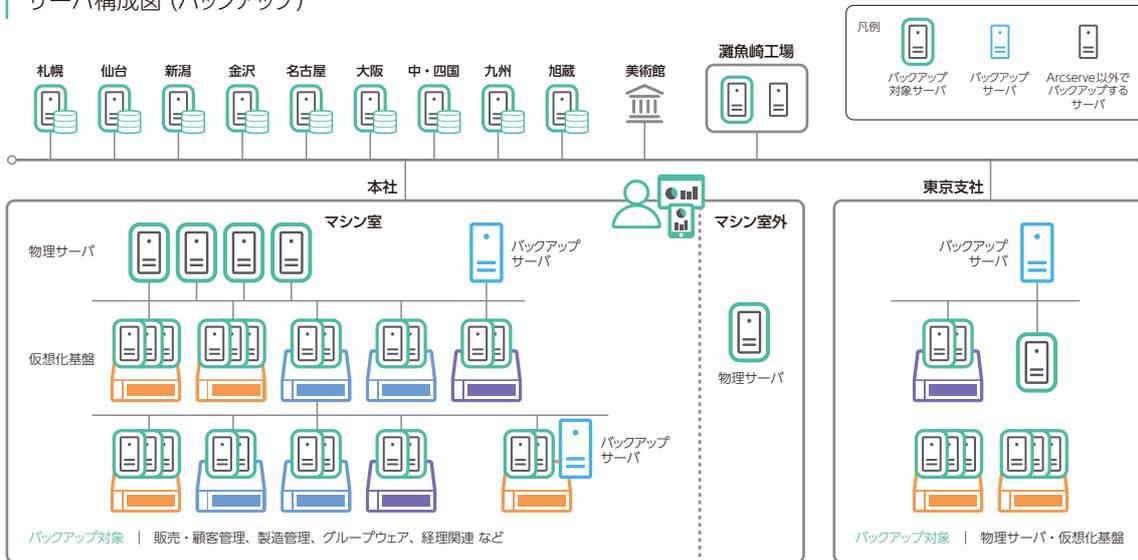
管理者不在の際にリストアを実行してもらうことで、より迅速なデータ復旧を実現している。また、同社は全国に12の支店があるが、それらの支店に設置されているサーバもArcserve Backupで統合的に管理できているため、異なる拠点の従業員からデータ容量復旧の依頼が場合でも管理用の端末から簡単にリストアできる。

また、勝部氏はハンズオントレーニングに参加したことで、自社のバックアップ運用をさらに効率化する重複排除機能の存在を知ったという。

「重複排除機能とは、重複したデータは保存せずに、すでに保存されているデータの参照情報として記録することで、バックアップデータを削減できる機能です。通常運用しているとこのような新しい機能を知る機会はなかなかありませんが、Arcserve Japanでは定期的に実機を利用したハンズオントレーニングを実施してくれるため、実際の操作が理解しやすく、知識も習得しやすいと感じました。今後導入するサーバで重複排除機能を利用することで、ディスクの追加によるコストを抑えたいと考えています」と勝部氏。今後も同社のハンズオントレーニングに積極的に参加していく予定だという。

白鶴酒造では今後、重複排除の導入に加え、社内のバックアップ環境をArcserve Backupで統一していく方針だ。Arcserve Japanでは白鶴酒造の全社的なArcserve Backupの切り替えに関しても、全面的にバックアップを行い、支援を進めていく。

サーバ構成図 (バックアップ)



すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。 Copyright ©2015 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

Arcserve Japan

お問い合わせ

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング
Arcserve ジャパン ダイレクト 0120-410-116

※記載事項は変更になる場合がございます 2015年4月版

詳しくはWebで!